

臨床腫瘍学

担当指導医師

●本院

教授：板持 広明

基本方針：

高次臨床実習の目的は、4・5学年の臨床実習で修得した診察法および臨床腫瘍学を含めた一般医学知識に基づいて、腫瘍性疾患患者の病態および問題点を的確に把握し、病態に即した治療方針を示すことができることと、緩和ケアを含めた多職種チーム医療を理解することにある。よって担当指導教官のもとで以下の実習を行う。

具体的実習内容：

1. 実習内容

- (1) 患者の病歴聴取、胸部・腹部の診察（視診、聴診、打診、触診）を行う。
- (2) カルテ記載を行い、患者への病状説明に同席する。
- (3) 全身状態、バイタルサイン、ADL、フレイル評価を学ぶ。
- (4) 問題点を抽出し病態との関わりを説明する。
- (5) 問題点に対する方針をたてる。
- (6) EBMに基づいた治療方針を立案し説明する。
- (7) 副作用の評価と支持療法を学ぶ。
- (8) 緩和医療との連携を学ぶ。
- (9) 外来化学療法室で看護師と薬剤師とのチーム医療の理念と実際を学ぶ。
- (10) がん専門施設での実習を介してがん医療を経験する。

（注；受け入れ施設の状況によりがん専門施設で実習ができないことがある）

2. 教室内行事

- (1) 回診（毎朝：8：30～）
- (2) キャンサーボードミーティング（第1,3週水：7:30～8:00）
- (3) 骨転移カンファレンス（第2,4週水：18時～）

3. 具体的な対象疾患名

- (1) 原発不明がん
- (2) 甲状腺がん・口腔がん
- (3) 縦隔悪性腫瘍
- (4) 消化器がん
- (5) 悪性軟部腫瘍

4. 授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
視聴覚用機械	液晶ディスプレイ	1台	講義・症例検討
視聴覚用機械	パソコン一式（Windows）	1台	講義・症例検討
その他	電子カルテ	2台	講義・症例検討